

神奈川縣

東東府華族(旧山七縣)
神奈川縣

伊藤博文

天保十二年五月九日生

明治元年戊辰正月廿五日

一參與職被仰付候事

同年二月廿日

一徵士參其職外國事務局判事被仰付候事

同年閏四月廿一日

一瘵三職八局

同年五月三日

樞密院

一是迄ノ職務被免大坂府判事兼外國判事被仰付候事

但兵庫神戸兩所在勤ノ事

同年五月六日

一敘從五位下

同年五月廿三日

一兵庫縣知事被仰付候事

同二年己巳三月十八日

一御用有之東下可致者被仰付候事

同年四月十日

一依願兵庫縣知事被免候事

但位記返上ノ事

同年四月十二日

一願ノ趣難被聞食届候一共無餘儀次第有之
兵事縣知事被免候然ル處何分要港ノ儀付
更ニ判事被仰付候間知事久我維磨ヲ輔翼
ニ勉勵勤仕候様御沙汰候事
一徵士兵庫縣判事被仰付候事

一叙從五位

同年五月十六日

攝密院

一當官ヲ以テ通商司知事兼勤被仰付候事

同年五月十八日

一是迄ノ職務被免會計官權判事被仰付候事

同年六月二十日

一當官ヲ以テ東京府在勤被仰付候事

同年七月八日

一廢會計官置大藏省

同年七月十八日

一任大藏少輔

同年八月十一日

一叙從五位

一兼任民部少輔

同年八月十五日

一本官ヲ以テ北海道开拓御用掛被仰付候事

同年十一月十日

一鉄路制作決定ニ付英國ヨリ金銀借入方條約取
結ノ全權御委任被仰付候事

同年十一月廿八日

一昨午奉職鞅掌励精盡力候段御満足被
思召候依之御太刀料金三百圓下賜候事

同三年庚午七月十日

樞密院

一民部少輔兼任被免候事

同三年閏十月三日

一御用有之末利堅固ニ被差遣候事

同月廿日

一復古以來勤勞不仕候付位階ニ等昇進被仰付
候事

一敘從四位

同四年辛未五月

一歸朝

同年六月二十日

一御用有之大坂表へ出張被仰付候事

同年七月廿八日

一任租税頭

同年八月廿日

一當分造幣頭兼勤被仰付候事

同年九月廿日

一任工部大輔

同九月廿七日

一前職中御用取調トシテ大坂出張被仰付候事

同四年十月八日

樞密院

一特命全權副使トシテ欧米各國へ被差遣候事

同年十月四日

一今般汝等ソ使トシテ海外各國ニ赴カシム朕素

ヨリ汝等ノ能ク其職ヲ盡シ使命ニ堪フ一キヲ

知ル依今國書ヲ付ス其レ能ク朕カ意ヲ辨シテ

努力セヨ朕今ヨリシテ汝等ノ無恙歸朝ノ日ヲ

祝セシコトヲ俟ツ遠洋千萬自重セヨ

一造幣^機創業ノ儀ハ我國未曾有ノ大業ニ候處

速ニ成功ニ及候般全ク勵精盡力ノ所致候感

不淺候歟之為其實別紙目錄ノ通下賜候事

御成作期

金四百圓

同五年壬申十月廿五日

一鐵道創建物議紛紜ヲ不顧定見ヲ確守シ終ニ今日ノ成功ニ及ヒ候故殿威不淺依之為其賞目録ノ通下賜候事

劍一口 代金六百圓

同六年九月十三日

一歸朝

同年十月廿五日

一任參議

樞密院

一兼任工部卿

同七年二月十八日

一敘正四位

同年七月七日

一地方官會議議長被仰付候事

同年八月二日

一夫久保内務卿清國派出中内務卿兼勸被仰付候事

同年十一月廿八日

一夫久保内務卿歸朝ニ付内務卿兼勸被免候事

一 地方官會議之長被免候事

同八年一月十七日

一 御用有之大阪表へ出張并但馬生野京都越前
敷賀一順廻被仰付候事

同三年三月十七日

一 政躰取調御用被仰付候事

同年七月九日

一 法制局長官被仰付候事

同九年四月廿二日

一 賞牌取調掛被仰付候事

樞密院

同年七月十七日

一 御用有之生野銀山出張被仰付候事

同年七月廿九日

一 北海道巡視被仰付候事

同九年十月十二日

一 兼任賞勳事務長官 兼工部 兼工部法制局長官加改

同年十一月廿九日

一 乘明治十年一月大和及京都一行幸ニ付供奉
被仰付候事

同十年七月廿五日

年十月廿九日

一還幸供奉被仰付候事

同年十月十七日

一本月廿日上州新町驛紡績所開業式ニ付出張被仰付候事

同年十月二日

一敘勲一等賜旭日大綬章

同年十二月廿五日

一刑^法草案審查總裁被仰付候事

同十一年三月五日

一廢賞勲局長官副長官

樞密院

一兼任議定官 兼工部卿法制局長官兼故

一地方官會議之長被仰付候事 太政官

同年五月十五日

一免兼工部卿

太政官

一兼任內務卿 兼議定官法制局長官兼故

一當分之内工部省御用取扱被仰付候事同上

同年五月廿八日

一佛國博覽會事務總裁被仰付候事 同上

一刑法草案審查總裁被免候事 同上

同年八月一日

一工部省御用取扱被免候事

同上

同年八月廿九日

一大隈大藏卿御巡幸供奉中大藏卿兼勤被仰付候事

同上

同年十月十日

一大藏卿兼勤被免候事

同上

同十二年二月十九日

一依願免法制局長官

太政官

同年四月三十日

一法制局長官井上馨長崎出張中同局御用取扱

樞密院

被仰付候事

太政官

同年六月四日

一法制局長官井上馨歸京ニ付同局御用取扱被免候事

同上

同年七月十日

一大藏卿大隈重信箱館出張中大藏卿兼務被仰付候事

同上

同年七月十八日

一御用有之日光ハ被差遣候事

同上

同年八月七日

一大藏卿大隈重信歸京、付大藏卿兼務被
免候事
同上

明治十三年二月廿八日

一免兼内務卿
同上

同年三月十五日

一依願免兼官
(兼定官)
同上

同年四月十二日

一御巡幸供奉被仰付候事
和球電

同年六月十五日

一御用有之御巡幸供奉被免候事
同上

樞密院

但御用相濟次第参向可致候事

一兼任参事院議長

同年十一月十八日

一官中庶務主管并會計主管被仰付候事
大臣
口達

同十九年一月六日

一御用有之三池一出張被仰付候事
太政官

同年二月廿五日

一免兼官
参事院議長

一御用有之歐洲一被差遣候事
太政官

同年三月三日

朕明治十四年十月十二日ノ詔勅ヲ履ニ立憲ノ政体ヲ大成スルノ規模ハ固ヨリ一定スル所アリト雖モ其経営措畫ニ至テハ各國ノ政治ヲ斟酌シテ以テ采擇ニ備ルノ要用ナルカ為ニ今爾ヲシテ歐洲立憲ノ各國ニ至リ其政府又ハ碩學ノ士ト相接シ其組織及ニ實際ノ情形ニ至ルマテ觀察シテ餘蘊無カラシメシトス茲ニ爾ヲ以テ特派理事ノ任ニ當ラシメ爾カ万里ノ行ヲ勞トセスシテ此重任ヲ負擔シ歸朝スルヲ期ス

樞密院

同年九月廿九日

一薩克遜滙馬耳國大公殿下ヨリ贈與シタル白鷹第一等勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

同十六年三月十三日

一露國皇帝アレキサンドル第三世陛下踐祚祝賀ノ為ニ特命全權大使トシテ同國へ出張被仰付候事

同上

同年八月四日

一歸朝

同年九月十七日

一露西亞國皇帝陛下ヨリ贈與シタル白鷺大綬
勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

同年九月十八日

一御用有之福島縣管下へ出張被仰付候事

太政官

同年十二月十日

一外務卿代理被仰付候事

同上

同十七年二月廿一日

一外務卿代理被免候事

同上

樞密院

同年三月十七日

一制度取調局長官被仰付候事

太政官

同年三月廿一日

一兼任宮内卿

同年五月二十日

一工部卿不在中工部卿兼任被仰付候事

太政官

同年七月七日

一特旨ヲ以テ華族ニ被列候事

宮内卿

一依勲功特授伯爵

同年十二月廿七日

一特旨ヲ以テ華族^{位階}被^任候事

太政官

一叙從三位

同十八年二月廿四日

一特派全權大使トシテ清國へ被差遣候事

太政官

同年三月七日

一獨逸國皇帝陛下ヨリ贈與シタル王冠第一等
勲章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス

同年四月廿八日

樞密院

一歸朝復命

同年五月廿五日

一瑞典國兼諾威國皇帝陛下ヨリ贈與シタル
ワザ第一等勲章ヲ受領シ及佩用スルヲ允
許候事

同年五月廿七日

一京攝地方へ出張被仰付候事

太政官

同年七月十八日

一御巡幸供奉被仰付候事

宮内省

同年十二月廿二日

一 廢官

一 任内閣総理大臣兼宮内大臣

同十九年九月廿七日

一 澳地利國兼洪葛利國皇帝陛下ヨリ贈英シク
ル鐵冠第一等勲章ヲ受領シ及佩用スルヲ允
許ス

同年十月十九日

一 叙從二位

同年十月三十日

一 御用有之九州地方へ出張被仰付 内閣

攝 密 院

同年十二月廿七日

一 獨逸國皇帝陛下ヨリ贈英シタル赤鷲大綬章
ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス

同二十年一月十三日

一 京都行幸供奉被仰付 内閣

同年五月三日

一 伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタルグラシヨル
ドーネ、デル、カル、ダイネ、デル、サンマウリシヨ、エ、ラ
ツァー、口勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許
ス

同年八月廿五日

一 葡萄牙國皇帝陛下ヨリ贈與シタルオルドル、
ミリテール、ドノートル、ダムトラコシセプロシヨシ
ドウイラウ、井ソーサ第一等勲章ヲ受領シ
及佩用スルヲ允許ス

同年九月十日

一 免兼宮内大臣
宮内省
一 臨時兼任外務大臣

同年十一月一日

一 御用有之沖繩鹿兒島長崎廣島四縣巡行

樞密院

被仰付

内閣

同年一月廿四日

一 暹羅國王陛下ヨリ贈與シタル王冠第一等勲
章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

同年二月一日

一 免兼臨時外務大臣
内閣

同年四月二十八日

一 更置樞密院定職員

同年四月三十日

一 任樞密院議長 年俸六千四

朕卿ノ情願ヲ容レ重任ヲ解キ特ニ命シテ内閣ニ列セシム

同年八月廿五日

一朝鮮國諸港及浦塩斯德巡覽被仰付 内閣

同廿二年二月十一日

一賜旭日桐花大綬章

同年三月九日

一御用有之京都大阪二府愛知三重奈良三縣
へ被差遣 内閣

樞密院

明治二十二年十月三十日

依願免本官

内閣

依願内閣ニ列スルヲ免ス

全上

任官中顧問官

~~全上~~

十一月一日勅旨

朕官中顧問官從二位勲一等伯爵伊藤

博文ヲ待ツニ特ニ大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ

元勳優遇ノ意ヲ昭ニス

十一月二十五日

大日本帝國憲法發布記念章授與

明治廿三年十月廿四日

一 貴族院令第十一條ニ依リ貴族院議長ニ

任ス

内閣

明治二十四年六月一日

一 任樞密院議長

今七月廿一日

一 議員辭職御允許アラセラレタリ

明治二十五年三月十一日

一 病氣ニ付徳大寺侍從長ヲ其邸へ遣ハ

サレ左ノ宸翰ヲ賜リタリ

樞密院

朕卿カ陳情極メテ切ナルヲ知ル但シ朕ハ

常ニ相咫尺シテ卿カ啓沃ニ倚ランコトヲ望

ム卿其レ餐ヲ加ヘテ静養シ以テ朕カ懐ヲ

慰メヨ樞詢ノ職ヲ解クハ朕カ允サハル所

ナリ

御名

明治二十五年四月十二日

一 條約改正案調査委員仰付ラレタリ

今八月八日

一 任内閣總理大臣

明治二十六年四月十三日

一 法典調査會總裁被仰付 内閣

今七月十日

一 手當金五百圓下賜 同上

今七月廿三日

一 海軍鎮守府巡視被仰付 同上

明治二十六年十二月十五日

一 手當金五百圓下賜 同上

明治二十七年六月廿日

一 法典調査會總裁手當トシテ金二百

樞密院

五十圓下賜

内閣

今九月

一 大本營廣島へ進ノラレタルニ付供奉仰

付ラレタリ

今九月二十七日

一 手當金二百五十圓下賜 同上

今十二月十七日

一 同上 同上

明治二十八年一月

一 清國使節来朝ニ付全權辦理大臣仰

付ケラレタリ

今三月

一 清國使節来朝ニ付全權辦理大臣仰

付ケラレタリ

今三月二十二日

一 法典調査會總裁手當トシテ金二百五

十四下賜

左上

今四月十八日

一 勅語

清國曩ニ全權大臣ヲ簡派シ我ニ和ヲ請

樞密院

ハシム朕其ノ切實ナルヲ認メ乃チ卿等ニ授

クルニ全權ヲ以テシ命シテ清使ト會商セシム

卿等導引折衝數日ヲ費シ遂ニ善ク妥

懐ヲ得タリ今卿等カ奏スル所ノ梗概ハ朕カ

旨ニ副リ洵ニ帝國ノ光榮ヲ顯揚スルニ足ル朕

卿等ノ功ヲ偉トシ深ク之ヲ嘉尚ス

明治二十八年六月十八日

一 臺灣事務局總裁被仰付

内閣

今六月二十二日

一 法典調査會總裁手當トシテ二百五十四下賜

左上

全八月五日

一 明治廿七八年事件ノ功ニ依リ大勲位菊花

大綬章ヲ授ケ賜フ

賞勲局

一 依勲功特陞授侯爵

一 叙大勲位授菊花大綬章

全九月廿一日

一 法典調査會總裁手当金二百五十円下賜

全十一月十八日

一 明治廿七八年從軍記章條例ニ依リ陸軍大

臣ノ奏請ヲ允シ明治廿八年十月八日勅定ノ從

樞密院

軍記章ヲ授典ス

賞勲局

全十二月廿日

一 叙正二位

全

一 法典調査會總裁手当金二百五十円下賜

明治廿九年三月十九日

一 露西亞國皇帝陛下ヨリ贈与シタル神聖ニア

レキサニドル、ホウスキ、大綬章ヲ受領シ及佩用

スルヲ允許ス

賞勲局

全三月二十五日

一 法典調査會總裁手當金二百五十円下賜

今四月一日

一 除服出仕

今四月十日

一 療台湾事務局官制

今五月三十日

一 舞鶴、吳、佐世保、台湾及清國厦門地方

へ出張仰付ケラレタリ

今六月廿五日

一 法典調査會總裁手當金二百五十円下賜

樞密院

今八月三十一日

一 依願免本官

内閣

詔勅

朕正二位大勲位侯爵伊藤博文ヲ待ツニ

特ニ大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ元勲優遇ノ意

ヲ昭ニス

今九月廿三日

一 法典調査會總裁手當金二百五十円下賜

今十月廿二日

一 西班牙國皇帝陛下ヨリ贈与ニタルコニヤル、トロ

ワシ勲章ノ頸飾ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス
全十一月五日

一 依願法典調査會總裁被免
内閣

明治三十年五月四日

一 威仁親王殿下大不列顛國皇帝陛下即位
六十年祝典参列ノ為、被差遣候ニ付隨行
被仰付
宮内省

全九月五日

一 帰朝

全十月四日

樞密院

一 白耳義國皇帝陛下ヨリ贈与ニタル「カグラシ」
ルバンド、ロルドルド、レオポール
勲章ヲ受領シ及
佩用スルヲ允許ス
勲章局

明治三十年十月四日

一 大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈与ニタル銀製「ジュビ
リー」記念章ヲ受領シ及佩用スルヲ允許ス
全上

明治三十一年一月十日

一 任内閣總理大臣

全一月二十一日

一 法典調査會總裁被仰付
内閣

めくれず

今三月九日

一 法典調査會總裁手當金二百五十円下賜 左

今四月廿九日

一 法朗西共和國政府ヨリ贈与シタル「グラフィックロワー」ド、

ロルドル、ナレヨナル、ド、ラ、レゾンドノールニ勲章ヲ受領シ

及ヒ佩用スルヲ允許ス

賞典局

今六月十五日

一 法典調査會總裁手當金二百五十円下賜 内用

今六月廿日

一 依頼免本官

左

樞密院

詔勅

朕正二位大勲位侯爵伊藤博文ヲ待ツニ特ニ

大臣ノ禮ヲ以テシテ之ニ之勲優遇ノ意ヲ昭ニス

今六月廿九日

一 法典調査會總裁ノ職ヲ奉シ勲勞不敷ニ付

金五一組ヲ賜フ

賞典局

今七月四日

一 依頼法典調査會總裁被免

内用

今十二月五日

一 清國皇帝陛下ヨリ贈与シタル頭等筴三雙

龍寶星ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス
勳章

明治三十二年八月廿四日

一 帝室制度調査局總裁被仰付
宮内省

明治三十三年九月十四日

一 東宮輔導顧問 帝室制度調査局總裁

皇室經濟顧問辭職出願ノ慶弔會屆ケラル

今十月十九日

一 任内閣總理大臣

今十月三十日

一 法典調査會總裁被仰付
内用

樞密院

明治三十四年五月十日

一 依願免本官
内用

詔勅

朕正二位大勲位侯爵伊藤博文ヲ侍フニ特ニ

大臣ノ禮ヲ以テシ茲ニ元勲優遇ノ意ヲ昭ニス

今六月六日

一 依願法典調査會總裁被免
内用

明治三十五年三月十五日

一 大不列顛國皇帝陛下ヨリ贈与シタル「グランド

クロス・オブ・ジューズ」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スル

ヲ允許ス

賞勳局

明治三十五年三月十五日

一 露西亞國皇帝陛下ヨリ贈与シタル金剛石装

飾神聖「アレキサンドルネブスキー」大綬章ヲ受

領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

全上

獨逸國皇帝陛下ヨリ贈與シタル金剛石装

飾赤鷲大綬章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允

許ス

全上

伊太利國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「アニンシニアード」

勲章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

全上

樞密院

明治三十五年七月二日

勅語

朕方今ノ時局ニ顧ミ、卿ハ啓沃ニ賴ルヲ惟ト茲ニ

再ヒ卿ヲ煩ヒテ樞府ノ重職ニ就カシメ以テ國家

要務ノ諮詢ニ應ゼシメトス。顧リ、維新以來ノ事

業中外ニ涉リテ前途尚甚ク悠遠ナリ、朕ハ卿

カ積年ノ勤勞ニ倚信シ、匡救獎順以テ克ク

其ノ終始ヲ完クセムコトヲ望ム

全七月十三日

一 任樞密院議長

全七月十六日

一 帝室制度調査局總裁被仰付

宮内省

全三十七年三月七日

一 御所中今般韓國皇宮御慰問ノ恩

召ヲ以テ特派大使トシテ差遣サレル旨御沙

汰アラセラルタリ

全 年四月十八日

一 韓國皇帝陛下ヨリ贈與シタル大勲位金

尺大綬章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス

賞勲局

樞密院

全三十八年二月

一 御所中今般韓王皇宮御慰問ノ

恩召ヲ以テ特派大使トシテ差遣サレル旨

御沙汰アラセラルタリ

全三十九年八月

全 年十二月二十四日

一 任統監

全三十九年一月九日

一 兼任樞密院副官

全 年四月一日

同年三月廿日
一除服在
内閣

一授菊花章頭飾

一明治三十七八年事件ノ功ニ依リ時ニ菊花章

頭飾ヲ授ケ賜フ

賞勳局

今四十年二月十一日

一勅語

曾テ皇室典範帝國憲法ヲ制定セシヤ卿實ニ

草創ノ任ニ膺リ帝室制度調査局ヲ置クニ及テ

卿ヲシテ之ヲ總裁ヤシム今ヤ其功竣ヲ告ク是ニ於

テ皇室諸般ノ令章始メテ備ハリ以テ後嗣ニ貽ス

所アリ朕深ク其績ヲ嘉ス

樞密院

一帝室制度調査局廢止

一帝室制度調査局殘務取扱フヘキ旨御沙汰アラス

タリ

今四十年八月二十日

一勅語

朕夙ニ東洋ノ平和ヲ重シ卿ヲシテ韓國ノ扶植ニ任

セシム卿克ク朕ノ意ヲ體シ拮据盡瘁效果維擧リ

今ヤ新協約ノ成立ヲ見ル寔ニ卿カ忠誠ノ致ス所ナリ

朕深ク其功勞ヲ嘉ス

今年九月二十日

一明治三十七年從
軍記章條例ニ
依リ陸軍大臣ノ
奏請ヲ經テ明治
三十九年三月三
日勅定ノ後軍
記章ヲ授與ス
賞勳局

一韓皇太子大詔
託任 青苔書

一依勲功特陞授公爵

公四十二年一月二十二日

一帝室制度調査局殘務取扱免セシ旨御沙汰アセラ

レタリ

公四十二年四月十八日

一明治四十二年勅令第百四十二號ノ旨依リ皇太子殿下渡韓記念

章ヲ授與セシ

賞勲局

公 年六月十四日

後

一任樞密院議長

前

一勅語

樞密院

朕特卿ヲシテ統監ノ任ニ膺ラシムルヤ卿ノ忠誠練達

ナル克ク草創ノ業ヲ理メ韓國扶植ノ基ヲ固クシ以テ

朕ノ倚信ニ副ヘリ其功績實ニ偉大ナリトス今や卿ノ

陳情ヲ容納シ統監ノ職ヲ解クニ方リ朕ハ尚ホ澤々卿ノ

啓沃毗贊ニ頼ルモノアラムトス卿夫レ之ヲ體セヨ

同四十二年七月廿六日

一韓國皇太子殿下留學中輔音總裁被仰付候事

宮内省

同 年八月二十八日

一日韓關係事蹟編纂總裁被仰付 同上

同年十月二十六日

一叙從一位

一薨去

~~一薨去~~

攝
密
院